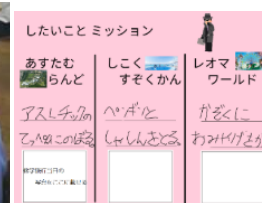
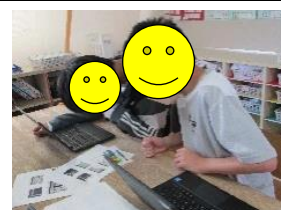


1人1台端末の活用による実践事例

学校名	倉敷支援学校	実践者名	大森 元太
実践場面 (教科)	生活単元学習		
単元・題材名	修学旅行の行先について調べよう		
学習目標・ ねらい	・ 修学旅行の行先でできることについて調べることができる。【知・技】 ・ 友達と協力して調べたことをまとめたり、発表したりすることができる。 【思・判・表】 ・ 修学旅行に向けて、やりたいことや楽しみなことを見付け、意欲的に学習に取り組むことができる。【学】		
対象の児童生徒の 実態	・ 普段から家庭でタブレット端末やスマートフォンに触れており、自分で操作して動画を見たりゲームをしたりすることができる生徒が多い。情報を読み解く力について、文章を読んで意味を理解することができる生徒、画像などを見ることで大まかなイメージを得ることができる生徒、二つの画像の違いに気付いて好きな方を選ぶことができる生徒がいるなど、実態は様々である。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			

- ① 修学旅行の行先である「レオマワールド」「四国水族館」「あすたむらんど」について、3つのグループに分かれ、そこでできることや土産などをPCで検索して調べる。
 - ・ 一人1台端末を使ってweb検索を行い、見つけた画像や文章を各自のロイロノートに保存した。
- ② グループ内でロイロノートの「送る」機能を活用しながら調べたことのまとめを作る。
 - ・ 「送る」機能を使ってグループ内で見つけたものを共有することで、自分では気付かなかったものを知ったり、友達の調べたことや画像をもとに説明文を書いたりするなど、友達を意識しながら学習を進めることができた。グループによって、発表の順番に合わせてカードをつなげてまとめたり、コーナーごとに分類してまとめたりと、それぞれのグループで異なる形のまとめが出来上がった。
- ③ グループごとに調べたことを発表する。
 - ・ 端末の操作や原稿を読むなど、役割分担をして友達と協力しながら発表を行った。発表グループのまとめた資料を大型テレビでの提示と実態に合わせて各自のPCへ画面配信機能で提示し、発表に意識が向きやすくなるようにした。
- ④ 3つの行先について個人で楽しみなことを考える。
 - ・ 各グループのまとめた資料を各自のPCに送り、各行先で自分がしたいことをミッションとしてロイロノート上のシートに記入した。事前学習と実際の修学旅行がより密接につながるように、このシートは修学旅行にしおりの一部として持っていく、事後学習で空欄に実際の活動中の写真を貼り、振り返りとして活用した。



活用のポイント・改善策等

今回の修学旅行に向けた学習では、いくつかの場面で一人1台端末とロイロノートを活用しながら学習を進めたが、日ごろからタブレット端末に親しんでいることもあり、意欲的、自発的に学習に取り組もうとする姿が多く見られた。ロイロノートには「送る」機能や「画面配信」機能があるため、生徒間で情報を交換や共有することができ、友達がどのようなことに興味があるのか気が付いたり、自分との違いを知ることができたりするなど、発達段階に差がある中での対話的な学びの姿を見取ることができたのではないかと考える。

同時に、発達段階の緩やかな生徒にとって操作の難しさや選択のしにくさを感じる場面があった。特に、好きなものや気になるものを選ぶ際に、大きな画像で見せようとする画面に一つしか表示することができないため、同時に複数の選択肢を提示しにくく、本当に好きだと感じたものを選ぶことができたか分かりにくくなってしまった。情報端末だけで学習を進めようとするのではなく、生徒の実態に合わせて紙面や具体物の活用も行うなど、ICT機器と具体物のそれぞれのメリット・デメリットを理解してうまく活用していくことが、情報化が進んでいく今後の学習活動において大切になってくると感じた。